

パブリック・サービス研究分科会 6月例会 「学生サービスとしての大学図書館員のありかた」研究グループ報告書	
日時	2009年6月8日(月)
場所	和光大学附属梅根記念図書・情報館
記録	西嶋(東京農業大学)
参加者	西嶋、矢ヶ崎(成城大学)、北原(相模女子大学)、内藤(学習院大学)、寺久保(東海大学)、小松(東京家政学院大学)川端(多摩大学)、小松(日本赤十字看護大学)、他1名

1. 進捗状況

先月5月のグループ研究の話し合いにおいて、「場としての図書館の方向性(HP等含む)」グループからグループ統合の話があり、それについての意思の再確認を行った。

今月の分科会に参加しているメンバーからは、あらためて統合するという方向での意思確認がとれたので、一緒にこれからグループ研究を進めていくことが了承された。

今後については、「学生サービスとしての大学図書館員のありかた」グループで進めてきた内容で進めていくことが了承された。

これまで二つのグループでは別々のテーマで研究を進めてきたので、双方の検討してきた内容を意見交換する必要があるという意見があったので、それぞれのグループで進めてきた経緯を報告しあうことになった。

図書館員として、自身がスキルアップするために何をすべきか各自が認識を深めるために、パブリックサービス研究分科会のメンバー全員でアンケートをとり、それらを基に各自で取組み、その成果を12月の最終の発表会で報告することを目標とし、そのアンケート調査の草案を7月のグループ研究までにまとめるという方向性で意見がまとまった。

たたき台については、西嶋が作成した原案をメンバーで共有し、それについて電子メール等で意見交換を行い、進めていくという方向で了承された。

そのような方向性でよいか加藤先生に確認を取りたかったが、今回の分科会では相談が出来なかった。

以上